科目ナンバリング	U-LAS04 20012 LJ46						
授業科目名<英訳>	関係発達論Ⅰ Relationship Development I			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 大倉 得史		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

人間の形成過程を周囲他者との関係性の変容として捉えるという関係発達論の発想と原理、およびその射程を明らかにする。発達心理学の基本的知見（認知機能の発達および感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障碍等の非定型発達についての基礎的な知識および考え方、高齢者の心理等）について理解を深めつつ、諸理論を有機的に統合する論理力・批判力を養う。

[到達目標]

各種の心理学理論をメタ的視点から批判的に評価できる。関係発達という新たな枠組みに立ったものの見方があることを理解し、現代社会の規制の枠組み（「～できる」ことを良しとする個体能力論的な枠組み)を相対化できる。

[授業計画と内容]

以下の各テーマにつき、1テーマあたり1～2週をかけて授業をしていく予定である。

１．関係発達論の概要（第1回)
２．ピアジェ以降の発達心理学研究とその問題点（第2回～第3回）
３．ヴィゴツキーのピアジェ批判（第4回）
４．ウェルナーの理論（第5回～第6回）
５．ワロンの理論（第7回～第9回）
６．精神分析学的諸研究（第10回～第11回）
７．関係発達論の鍵概念１～間主観性～（第12回）
８．関係発達論の鍵概念２～両義性～（第13回）
９．関係発達論の鍵概念３～相互主体性（第14回）
１０．フィードバック（第15回）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート（1回）、授業内の小課題。配点比は60：40程度。

[教科書]

大倉得史 『育てる者への発達心理学』（ナカニシヤ出版）ISBN:9784779505898

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書を読んできて予習・復習をしておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

教室定員を超える受講希望者が出た場合、抽選を行う。グループワークを多用するので、積極的に発言すること。

関係発達論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

関係発達論Ⅰ(2)

[主要授業科目（学部・学科名）]